

# 上関原発予定地長島の 自然環境と生態系調査



長島の自然を守る会

## 1. 上関原発計画をめぐる情勢

- ①原子炉設置許可に向けての動きと神社地裁判
- ②公有水面埋立許可と2つの取消訴訟

## 2. 2008年度の調査研究結果

- ①希少鳥類の確認(カムリウミスズメ・ウミスズメ)
- ②アカテガニの放仔確認・撮影
- ③スギモクの生殖器床の調査・撮影・報道
- ④アカモク・インモズクなどの生育確認と商品化試行
- ⑤祝島での生態系調査(カラスバト・ハヤブサetc.)

## 3. 調査研究成果の活用

- ①希少鳥類の確認と保全をめぐる攻防
- ②「上関自然の権利訴訟」での論証
- ③公有水面埋立を中止させるための普及活動
- ④自然と共生できる町作りへの具体的提案

## 4. 反対運動のこれからと2009年度の課題

# 1. 上関原発計画をめぐる情勢

## ①原子炉設置許可に向けての動き

### ★地質の追加調査

05年4月から08年1月までの地質調査で、耐震設計に影響する活断層の可能性のある複数の断層を確認。長さや想定される地震規模などを特定するためデータ補強が必要になった。追加調査は、陸域と海域で実施する。陸域は岩国、柳井市、田布施町など5市3町にまたがる東西約60キロ、南北約25キロの範囲。岩国断層帯の分布域も含む。ポーリングや人工的に起こした振動の伝わり方を測ることも予定する。海域は光市沖から上関町八島の南方を結ぶ直線約50キロで音波探査し、探査深度をこれまでの2キロから10キロに広げる。

### ★用地: 神社地裁判差戻し

- 入会権確認
- 妨害排除請求は敗訴

中電などに入会権の確認と所有権移転登記抹消、工事の禁止を求めた訴訟の控訴審判決が25日、広島高裁であった。広田聡裁判長は、入会権の確認について、請求を却下した一番山口地裁岩国支部の判決を取り消し、審理を山口地裁に差し戻した。中電への訴えについては控訴を棄却した。広田裁判長は、入会権確認の訴えを権利者個人が起こすことについて、昨年7月の最高裁判決を引用して適法とし、一部の権利者では訴えを提起できないとした一審判決を不当とした。差し戻し審で実質的な審理が始まることになる。原告側は「住民には生活に必要なまきを採取する入会権があり、土地の処分は住民全員の同意が必要だった」などと主張したが、一審判決はいずれの請求も却下した。

★漁業権: 共同漁業権敗訴確定 - 自由漁業・許可漁業を否定する不当な判決

## ②公有水面埋立許可と2つの取消訴訟

★祝島漁業者の取消訴訟

☆'08.10.20. 提訴

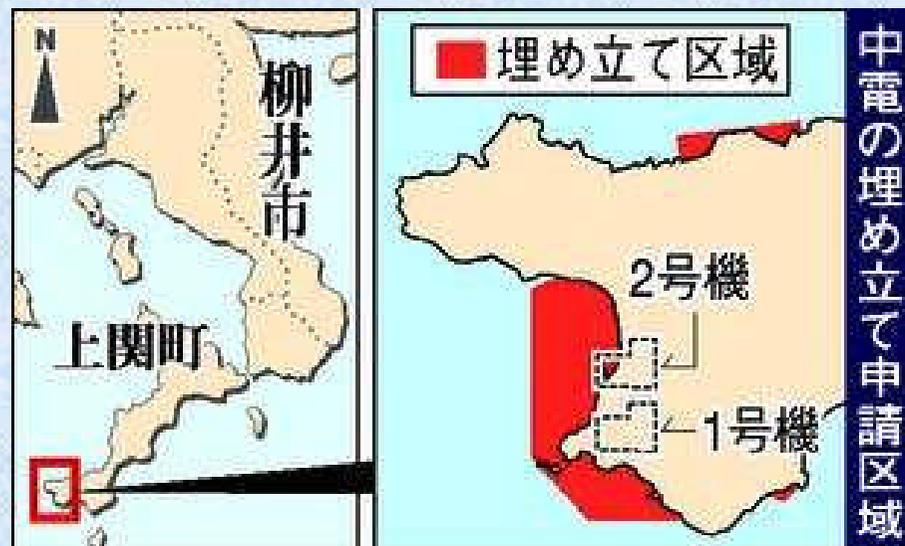
★自然の権利訴訟

☆'08.12.2. 提訴

★埋立準備工事による改変

☆大掛かりな伐採

☆仮棧橋の移設



## ☆6・10仮棧橋の移設阻止闘争と設置



（にらみ合いを続ける原発反対派住民ら）



（左後方のクレーン船の接近を阻止する祝島の漁船団と、仮棧橋上に座り込む祝島の住民ら）



（6月13日、仮棧橋の土台を移設するクレーン船）

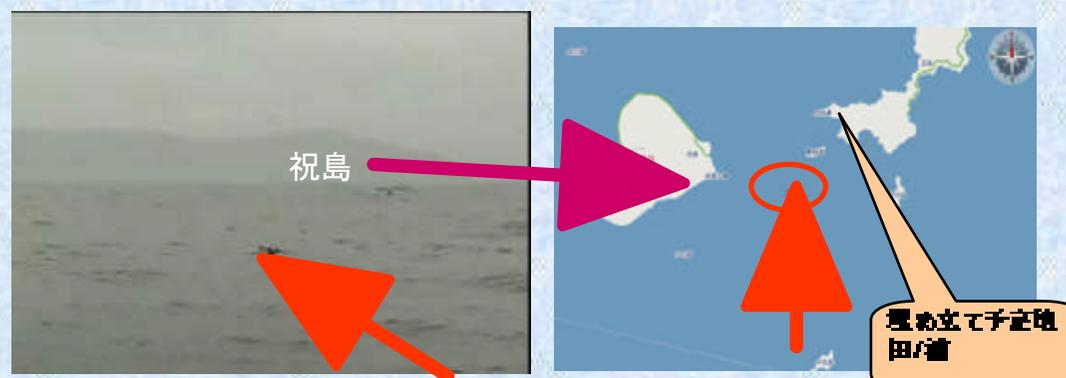
6月10日、上関原発予定地の田ノ浦にある仮棧橋（かりさんばし・上写真）の移設作業をしようとした中国電力に対し、原発建設に反対する祝島島民や周辺住民ら約60人が漁船とともに現地を訪れ、1日目の作業を阻止

## 2. 2008年度の調査研究結果

### ①希少鳥類の確認(カムリウミスズメ)

「長島の自然を守る会」が山口県熊毛郡上関町長島沖の海上において、カムリウミスズメ *Synthliboramphus wumizusume* (チドリ目ウミスズメ科) を確認。  
6回の調査のうち5回で、いずれも複数羽を確認。

日本の海鳥の代表種  
で、国際的に強く保護が  
叫ばれている保護鳥



カムリウミスズメ確認海域

カムリウミスズメは日本特産種で、推定生息個体数が最大でもわずか約10,000羽とされ、世界のウミスズメ類の中でも極端に生息個体数が少なく、かつ最も絶滅に瀕している海鳥。国際自然保護連合(IUCN)のレッドリストでは日本で繁殖する海鳥の中でアホウドリ *Phoebastria albatrus* と同一ランクのVulnerable(危急)種に指定されている。日本で最も緊急に保護が必要とされている海鳥であり、また日本の海鳥の代表として強く保護が叫ばれている国際的な保護鳥。しかし、繁殖期以外は常に海上で生活し、岩の隙間などの小空間で営巣するなど、普通に見られる鳥類とは大きく異なる極めて特異な生態を持っており生息状況が極めて把握し難い種類。

## ①希少鳥類の確認(カンムリウミスズメ・ウミスズメ)

‘09. 2. 7～8

埋立予定地内と取水口・放水口付近の海域でカンムリウミスズメを確認—中国電力の調査報告(予定地海域より沖で確認)を覆す

‘09. 2. 7～8

埋立予定地内と取水口・放水口付近の海域でウミスズメを初確認  
環境省絶滅危惧 I A類・山口県R.D.B.絶滅危惧 I A類

田ノ浦埋立予定地内で確認された  
ウミスズメアップ



羽ばたくウミスズメ



(‘09. 2. 7. 撮影;木村路子)

# ウミスズメ&カムリウミスズメ 確認地点('09. 2. 7~8.)



ウミスズメ確認地点

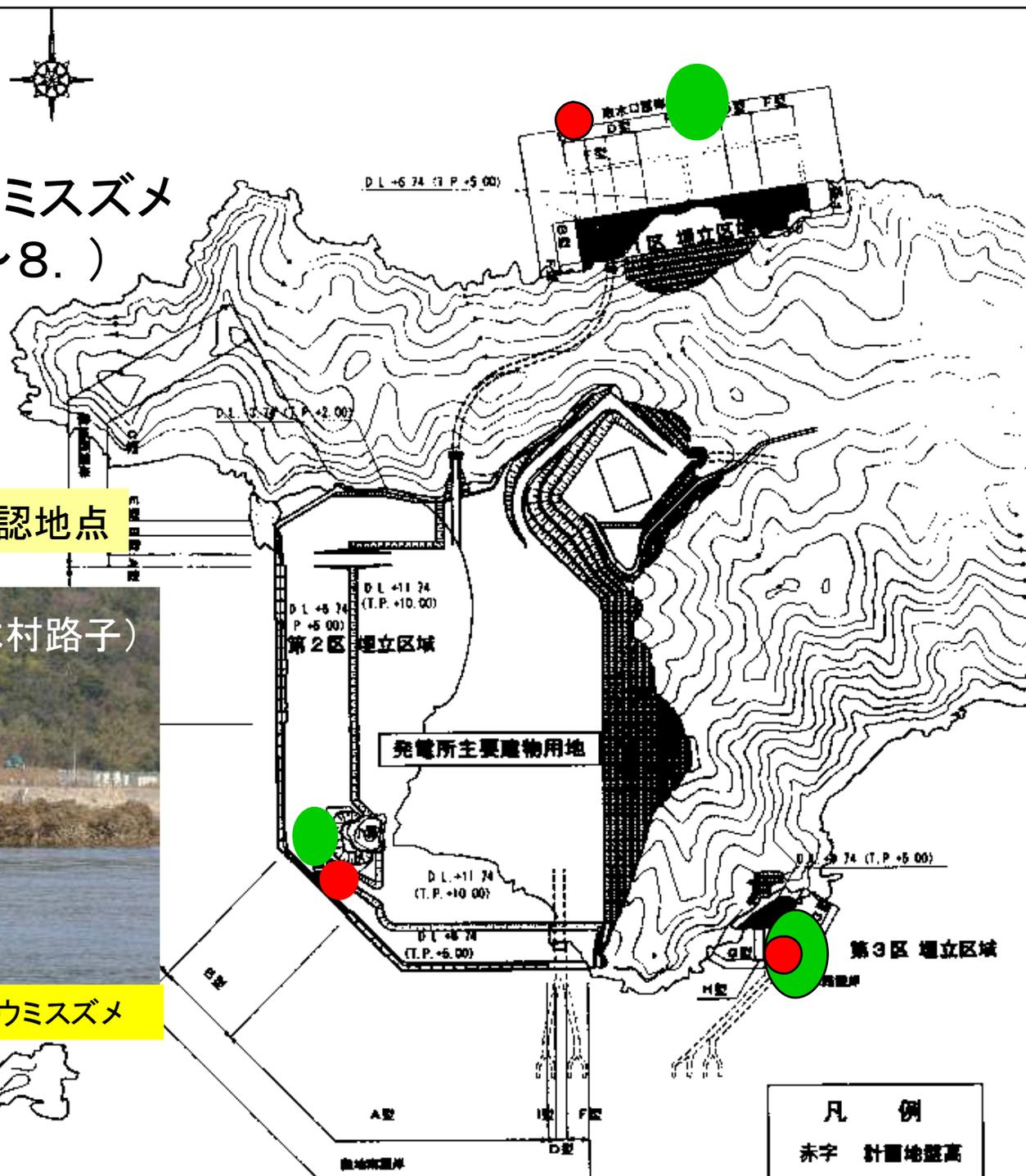


カムリウミスズメ確認地点

('09. 2. 7. 撮影;木村路子)



田ノ浦埋立予定地内で確認されたウミスズメ



## 2. 2008年度の調査研究結果

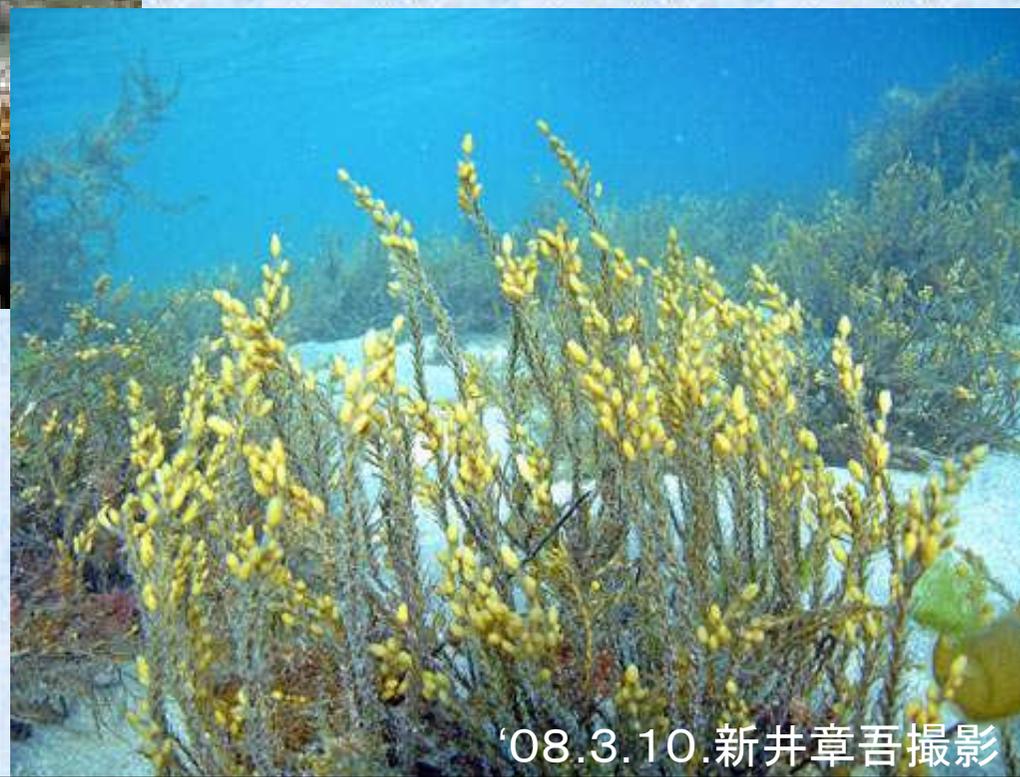
### ③スギモクの生殖器床の調査・撮影・報道



‘09. 3. 7伊藤恵理奈撮影. 朝日新聞社

その原因については以下の2つが考えられるようです。瀬戸内海全体が温暖化のせい、スギモクだけでなく、海藻の育ちが悪いということ。ただ、田ノ浦湾内と湾外を比べると特に田ノ浦湾内の海藻の育ちが悪く、詳細調査などにもなう陸域工事の影響も考えられます。

今年はスギモクの生育が去年より悪く、スギモクの丈が短く、生殖器床の大きさも小さく1本の茎につく数も減っています。個体群も減少していました。



‘08.3.10.新井章吾撮影

## 2. 2008年度の調査研究結果

### ④アカモク・イシモズクなどの生育確認と商品化試行



アカモクの採取の様子

### ⑤祝島での生態系調査 (カラスバト・ハヤブサetc.)



祝島の小島  
で確認された  
ハヤブサの幼  
鳥

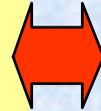


### 3. 調査研究成果の活用

#### ① 希少鳥類の確認と保全をめぐる攻防

##### 長島の自然を守る会

‘08. 5月初旬から6月上旬にかけて6回のうち5回、複数羽しかも未成鳥も確認。繁殖可能性あり。



##### 中国電力(株)

鳥学会会員の指導と漁業者の聞き取り調査で繁殖期に確認できず。繁殖可能性はない。

#### 日本鳥学会決議

幼鳥を含む複数個体が繁殖時期にこの海域で活動していること、および発電所計画区域内に繁殖に適した環境が存在することから判断すると、発電所計画区域内で繁殖している可能性があります。また、本種は繁殖期・非繁殖期を通じて、この付近の海域を行動域の一部として利用している可能性があり、発電所の建設後の稼働による温排水が本種の実物資源に影響を与えることが懸念されます。発電所建設の環境影響評価にあたっては、まずカムリウミスズメの繁殖状況および海域利用の現況を明確にすることが必要です。

#### カムリウミスズメの追加調査により埋立工事着手を延期

山口県上関町で原発建設計画を進める中国電力は十三日までに、予定地の本格的な造成工事を請け負う三つの共同企業体(JV)と仮契約を結んだ。中電上関原発準備事務所は「六月まで周辺海域で海鳥の生息調査をしているため、海面埋め立てなどの本格工事は七月以降になる」としている。[2009年5月13日 中国新聞]

### 3. 調査研究成果の活用

#### ②「上関自然の権利訴訟」での論証

#### 「上関自然の権利裁判を応援する研究者の会」結成

上関自然の権利訴訟とは？

- 原告； i ) スナメリ・カンムリミスズメ・ヤシマイシン近似種・スギモク  
ナメク ジウオ・ナガシマツボ  
ii ) 長島の自然を守る会および祝島島民の会の2団体  
iii ) 個人111名(一次募集分)

訴状；①中国電力が地質についての詳細調査を終えておらず、公有水面埋立法が求める公共施設たる原子力発電所の配置、規模が適正に審査できる状況にないこと。

②環境影響評価において、海を隔ててわずか4キロしか離れておらず、仮に放射能漏れなどの事故が発生すれば最も深刻な影響を受ける祝島が調査されていないこと。

③海域の埋め立てによって希少な生物が多数生息する田ノ浦の環境と多様な生態系が破壊されつくしてしまうこと。

④冷却水の取水排水にともなう恒常的な生態系破壊と一旦事故が発生すれば壊滅的な打撃を蒙ることが全く配慮されていないこと。

⑤中国電力がアセスメント実施過程で科学的なデータに基づく警告を繰り返し受けてきたにもかかわらず、事実に対する検討を怠り、杜撰なアセスメント手続きを実施したこと。

⑥長島は瀬戸内海国立公園にあり、瀬戸内海環境保全特別措置法に違反することなどにおいて、知事の埋立許可の違法性を告発しています。



# 反対運動のこれからと2009年度の調査研究課題

## 1. 海鳥の保護をめぐる攻防

新たなヒナの確認('09. 5. 18.)

### 原発計画海域に記念物のひな'09/5/23

中国電力が原発建設計画を進める山口県上関町の八島沖で、国の天然記念物カムリウミスズメのひな2羽が見つかったことが22日、分かった。これまで瀬戸内海での繁殖は確認されておらず、写真を撮影した北九州市立自然史・歴史博物館の鳥類担当学芸員武石全慈さん(56)は、詳しい調査の必要性を指摘している。

武石さんによると、18日午後5時すぎ、八島の南端から約3.4キロで、2羽のひなが成鳥2羽の後ろを泳ぐ姿を船上から撮影した。同町長島の原発建設予定地からは南東に約11キロ。ひなは体長約24センチの成鳥の3分の2の大きさで、羽毛の状態などから、ふ化後約2週間とみられるという。

武石さんは4月上旬から近海で調査を始め、同13日には計20羽の成鳥を確認した。ひなが見つかったことについて「瀬戸内海西部で営巣している可能性は否定できない。詳細調査が必要」としている。



【写真説明】山口県上関町八島沖で確認されたカムリウミスズメのヒナと成鳥(北九州市立自然史・歴史博物館学芸員の武石さん提供)

## 建設ありきの中国電力の姿勢が明らかになった記者発表

1. 時期尚早である
2. 繁殖確認だけに限定

当社は、上関原子力発電所計画地点周辺において確認されたカンムリウミスズメについて、継続調査として周辺海域の生息状況調査および繁殖確認等調査を実施しています。周辺海域の生息状況調査ではカンムリウミスズメの存在を確認していますが、専門家にも参画いただき、本年3月から5月に計画地点の地形改変区域およびその周囲の海岸部で重点的に実施した繁殖確認調査では、カンムリウミスズメの繁殖を示す兆候が確認されませんでした。この結果を受け、当社は、同地点におけるカンムリウミスズメの繁殖はないと考えます。

1. 毎年繁殖するとは限らない
2. 温排水も含め海洋生態系に与える影響を評価することが重要

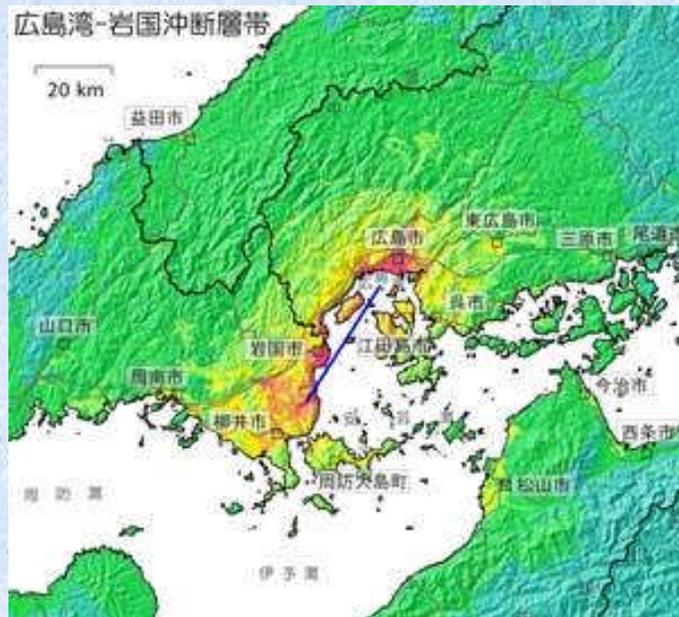
カンムリウミスズメは2～3年に一度しか繁殖しないとされている上に、今年はいくまでより親鳥の個体数が少なかった。繁殖の兆候を見つけるには経験を積んだ調査員の能力が必要だが、中国電力の調査手法には疑問が残る。きちんとした専門家を入れて2～3年に渡って継続して調査するべきだ (飯田知彦談)

“上関町海域において換羽中のカンムリウミスズメが少なからず見られたことは注目に値する。換羽のためには新しい羽毛を作るために余分な栄養が必要。どこで換羽をするのかということはカンムリウミスズメの生存にとって重要であろう。それが上関町海域周辺なのかもしれない”という指摘もある。

# 反対運動のこれからと2009年度の調査研究課題

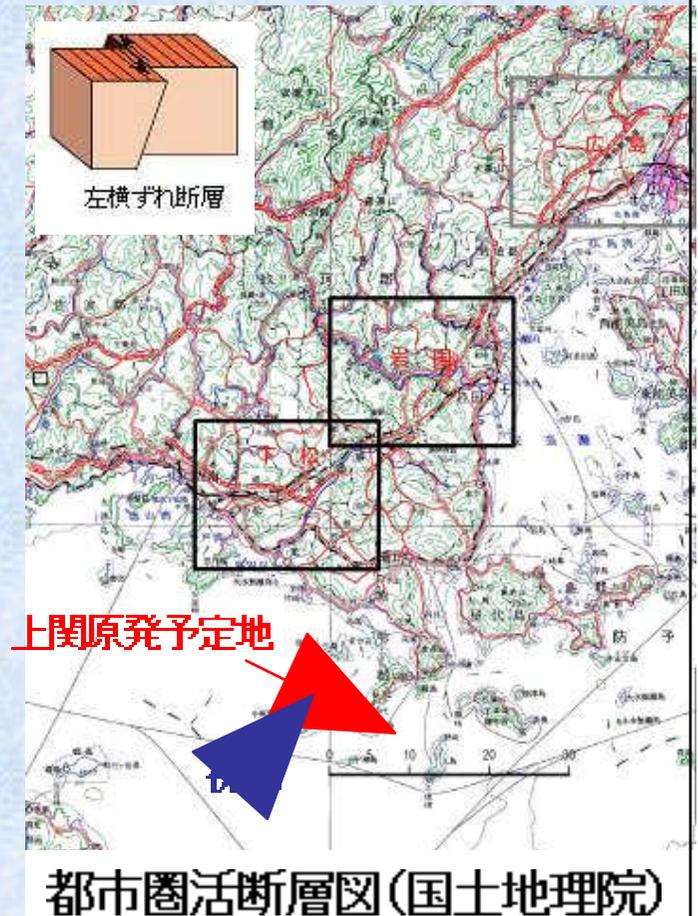
## 2. 地質・地盤をめぐる攻防

### ★周辺で新たな活断層を確認



安芸灘断層群の地震による予測震度分布(地震調査研究推進本部事務局)

河内(こうち)断層・栄(さかえ)谷(だに)断層が、今回の調査で新しく発見されました。各断層とも下松市の市街地の周辺まで延びていることがわかりました。河内(こうち)断層は、ほぼ北西-南東方向の長さ約4.5kmの左横ずれ※変位を伴う活断層で、河谷の屈曲が各所に見られ西端は雁行(がんこう)※しています



# 反対運動のこれからと2009年度の調査研究課題

## 3. 神社地裁判における入会権確認議論

★用 地

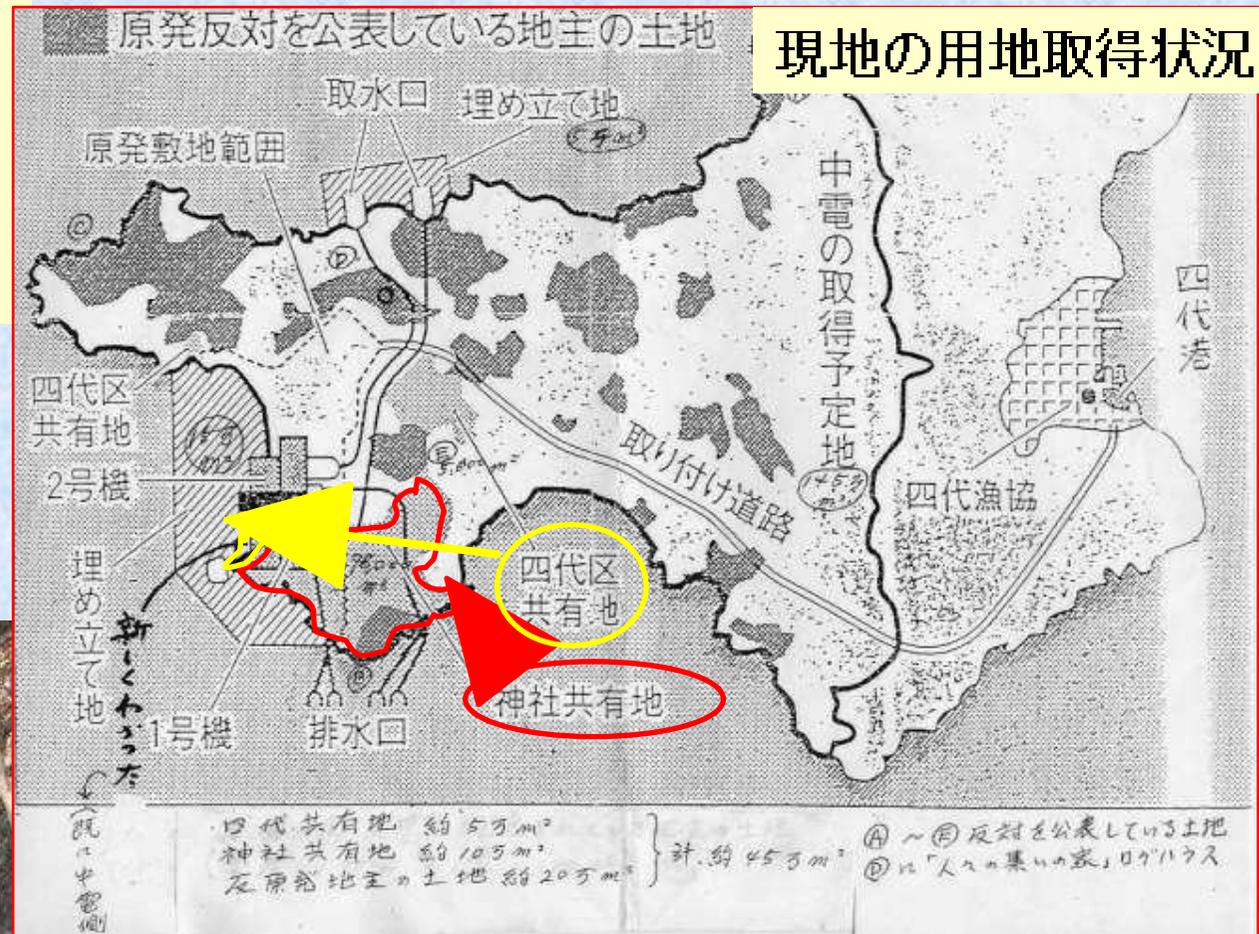
☆神社地裁判差戻し

●入会権確認

●妨害排除請求は敗訴

四代地区共有地裁判  
で入会実態部分につ  
いては勝訴

現地の用地取得状況



神社地植生；共有地と同様、萌芽更新があること、樹齢が35～50年であることで頻繁な利用実態が確認された。

# かけがえのない貴重な生態系をいつまでも

上関原発計画は、「自然及び自然と共に生きていきたいという人々」の願いを踏みにじり、未来の子供たちに残さねばならない貴重な財産を根こそぎ奪い去ってしまいます。

